

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目97番地1		
自己評価作成日	平成29年12月8日	評価結果市町村受理日	平成30年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?act_i.on_kouhyou_detai1_2017_022_kani_tru&sl_gvosyoCd=2172101095-00&PrEfCd=21&Ver:si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様・ご家族様共に安心して過ごして頂ける終身型の施設です。認知症があっても、最期まで「人として生きる姿」を保てるよう、『利用者様本位「できる力で生き活きと!!」』を施設理念とし、全スタッフ支援させて頂いています。特浴室を設けてあり、看護体制も確立している為、重度の方も受け入れ可能となっています。現在は介護度の高い方もみえ、活動に制限がありますが、毎月、音楽療法を行い、懐かしい歌や季節を感じられる歌に触れて頂き、少しでも楽しい時間を過ごして頂けるようにしています。また、地域の関わりとしては、自治会行事や中学校の体育大会を見学させて頂いたり、保育園児の来苑があったりし、交流できる機会を大切にしたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者の出来る力を活かすように声かけをして、出来ない部分を支援するように取り組んでいる。また、毎朝一人ひとりに挨拶した時の返事や表情などから、その日の気分や状態・思いを感じ取り寄り添うように心がけている。地域の人からは、新しく建設される公園に「必要なものがあれば意見を下さい」防災訓練時には「何かあれば駆けつけますから」などと、ともに暮らす地域住民の一員として受け入れられている。管理者は、職員が意見や提案など言いやすい関係を築き、的確なアドバイスをしたり、ケアに反映させたりして仕事がしやすくゆとりを持って働ける職場づくりに努めている。看護師の配置や協力医の連携から重度化や終末期の体制があり、利用者・家族の安心にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で、法人の方針に基づいた独自の理念を作り、毎月の全体会議で唱和し、理念に沿ったケアができていのか振り返っている。ご利用者様のできる力を活かして、地域の中で暮らし続けられるよう取り組んでいる。	職員が実践しやすいように独自の理念を作り、毎月の全体会議で「利用者本位」のケアが実践できているかを振り返っている。利用者の出来ることには声をかけて、その力を活かすよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事や中学校の体育大会を見学させて頂いたり、地元の保育園児が来苑してもらったりし、交流を行っている。また、散歩に出かけ、地域の方とあいさつや会話をし、機会を作るよう努めている。	中学校の生徒から案内をもらい体育大会の見学に出かけている。保育園児が来訪してゲームや手遊びを一緒に楽しんでいる。神社の祭りや散歩に出かけた時は近隣の人と挨拶を交わし世間話をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップを引き受けている。運営推進会議では、自治会長様・民生委員様・地域の方・ご家族様に活動状況を報告すると共に、認知症に対する理解を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告を含め、事業所の実績を報告し、全参加者にご意見をお聞きしている。その報告書や会議録は、全利用者様のご家族様に郵送させて頂いている。会議の内容は、スタッフ全体会議の場でも伝え、指摘事項については、話し合い、解決するようにしている。	隣接の事業所と合同で会議を行い意見交換をしている。認知症や独居にかかわる相談・質問があり説明している。家族の要望を受け、土日に会議を行うこともあるが、家族の参加がなく事業所毎での会議が難しい状況である。	今後も家族への参加の呼びかけを続け、合同会議後に事業所単独での話し合いができることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の手続き代行や、報告書類の提出時は、担当の方に会い、最近の暮らしぶりや状態を報告し、相談しやすい関係づくりに努めている。	書類提出のために市役所に出向いた時や担当者の訪問があった時に、事業所の空き情報や事故報告をしている。担当者とは相談しやすく助言を得られるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、国道に面しているという立地条件から、施錠させてもらっているが、散歩や気分転換できるよう外出する機会を作り、外気に触れられるようにしている。また全体会議の勉強会での身体拘束の内容や弊害について学びや確認を行い、介護度の高い方でも外出できるよう努めている。	身体拘束や虐待の勉強会の前にアンケートを実施している。職員の意識や理解の違いを知り、統一できるように話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。気になる対応があった時は、その場で互いに注意し合い、他の対応方法がなかったかを話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議時に虐待に関するアンケートを実施した後、勉強会を行い、知識を再確認する機会を持ち、共通の認識が持てるようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の全体会議時に勉強会を行い、全スタッフが理解や再認識できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに対する姿勢をご説明させて頂き、了承を得ている。重度化や看取りに対する指針、医療連携体制や料金体制、また契約解除に至る対応等、そしてその後の支援にも納得が得られるように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご意見やご要望を聞いたり、家族アンケートにご意見を記入してもらったりしている。アンケート結果はご意見を集約し、結果を報告している。江並新聞の発行や各受持ち担当者から近況報告を行っている。	家族の面会時に、管理者や看護師から近況・身体状況の報告をして、困り事や要望を聞いている。笑顔で接するよう心がけ落ち着いて話ができる環境を作っている。季節を感じる所へ行きたいとの要望に桜を見に出かけた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回自己評価を行い、リーダー・管理者立会いのもと面談を行い、意見を聞いている。毎月の全体会議や日々の介護でも意見を出し合い、全スタッフで検討し取り入れている。	管理者は、日頃から職員の意見や要望を聞き、話しやすい関係を築いている。利用者の状態やケアに関する提案には助言をしたり、話し合ったりしている。備品の購入や修繕の要望は法人の会議に上げて改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の体調や家庭環境に合わせた労働時間になっている。本人の勤務希望をできる限り可能にし、働きやすいようにしている。スタッフのモチベーションが保たれるよう、研修案内をいつでも閲覧できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して、一人一回は外部研修に参加するよう呼びかけ、研修代は事業所側で負担し、学べる機会を作っている。研修後、全体会議の場で報告会を行っている。資格取得についても呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、同法人全事業所の管理者や介護支援専門員が集まるトップマネジメント会議があり、勉強会や意見交換を行っている。他の事業所の取り組みについて、良い事は施設内の活動に取り入れ、質の向上に努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様と共に施設内を見学して頂き、雰囲気を感じてもらい、安心して頂いたうえで入所申し込みをして頂くようにしている。事前面接などで、ご本人様は勿論、ご家族様より生活状況や今後の生活に対する思いを十分お聞きし、安心して暮らして頂ける環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族様の苦勞や、今までのサービスの利用状況や経緯について、ゆっくり話を聴くことにしている。話を聴くことで、ご家族様が求めておられる事を理解し、事業所としてどのような対応ができるのか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入所と考えるのではなく、担当されておられるケアマネージャーより話を聴き、相談させて頂いたり、ご本人様やご家族様が何に困っていらっしゃるかを明確にしてからの契約としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全スタッフは、人生の先輩であるご利用者様に色々な事を学ばせて頂いたり、励ましを頂いたりし、働く者としての元気や意欲につながっている。お互いが協働しながら穏やかな生活ができるよう場面づくりや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況をご家族様にお話しし、情報の共有に努め、ご本人様と一緒に支えていく為に、ご家族様と同じような思いで支援させて頂き、信頼関係を深く築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話やご家族様・親戚の方からなじみの人や場所の情報を得ている。ご家族様の協力を頂き、友人や知人の来苑を依頼し、来苑の際は、お飲物をお持ちし、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。面会時間は特に限定していません。	昔の仕事や思い出話から馴染みの場所や人の把握をしている。知人・友人の訪問が続くように、訪問時に再来訪のお願いをしている。電話をかける支援も行い、馴染みの床屋に迎えに来てもらう利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話をお聴きしたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごせる時間の場面づくりをする等、ご利用者様同士の関係がうまくいくよう、良き調整役になれるよう、職員間で情報を共有し、注意深く見守るようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院へ移られても、混乱が少しでも軽減できるように、これまで施設で過ごされてこられた生活リズム等の情報を提供し、きめ細かな連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話に時間をかけ、会話が困難になられた方も、お声をかけ、表情や行動より思いを汲み取るよう努めている。申し送りノートを活用し、情報共有に努め、ケアに活かしている。	耳の遠い利用者には、ジェスチャーや聞こえやすい側から声をかけて思いを聞いている。困難な人には、日々の関わりや表情から思いを把握している。選択肢を用意し、思いが伝えやすいように聞き方の工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、これまで担当されてみえたケアマネジャーより、今までの暮らしぶりや価値観等を良くお聞きし、大切にされてみえた物等は可能な限りお持ちいただき、安心して過ごして頂けるような環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や会話の中から、小さな心身状態の変化も見逃してしまわない様心掛けている。毎月の全体会議時にケースカンファレンスを行い、職員間で検討事項を話し合い、現状を全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフは日々の関わりの中での気づきを、毎月のケースカンファレンスで意見交換を行い、そのモニタリングから、介護計画を見直している。ご利用者様・ご家族様のご希望、医師から指示がある場合は、介護計画に反映させている。	面会時に家族の要望を聞き、毎月担当者がモニタリングを行い、カンファレンスで話し合っ、介護計画を作成している。介護記録の援助内容が計画の目標に合っているかの確認を行い、必要に応じ追加や変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さなことでも記録に残し、申し送りノートや連絡ノートを活用し、情報を共有できるようにしている。プラン評価に関しては、ケースカンファレンスで話し合った内容をもとに、担当スタッフが記入をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じて、通院の送迎や衣類・介護用品の購入、また行政等への申請に関する助言等、個々のニーズに柔軟に対応し、満足度を高めるようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場を活用し、市・自治会長・民生委員・消防署より情報を頂いたり、日頃より何かあった場合の協力関係をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様・ご家族様のご希望があり、かかりつけ医から協力医に変更され、往診してもらっている。看護師がオンコール体制となっており、ご利用者様・ご家族様に安心して過ごして頂けるようになっている。受診前後はご家族様に連絡し情報を共有している。	入居時に本人・家族の希望で協力医に変更して訪問診療を受けている。急変時の受診は、家族に連絡して看護師が同行し、情報は共有している。状態によって協力医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、いつもと違うなという些細な変化でも報告し、小さな状態変化も見逃さないようにしている。看護師は24時間オンコール体制となっており、適切な看護や受診ができるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に応じて看護師やケアマネージャーがお見舞いに行き、その際、担当の相談員や看護師より情報を得ている。また病院側へも施設で過ごしてみえたご様子をお伝えし、ご家族とも情報交換に努め、速やかな退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の方針を説明している。状況の変化に応じて、その都度、説明し確認を取り、ご家族様・協力医・全スタッフが連携しながら、最期まで関わらせて頂くケースが多い。	入居時に事業所の方針を説明して意思の確認をしている。状態に応じてその都度医師から説明してもらい、再度意思の確認を行っている。家族・職員・医師と方針を共有しながら終末期の支援に取り組んでいる。家族が泊まって最期を一緒に過ごすこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアル、応急処置や救急車が到着するまでの対応についての勉強会を行い、落ち着いて行動できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含め、隣接している事業所との合同と単独の訓練を年2回行っている。ご利用者様にも参加して頂き、避難用滑り台を使用している訓練も行っている。	避難訓練は隣接の事業所と合同で運営推進会議時に行い、感想を聞いている。地域の方から「何かあったら駆けつけよう」との意見も出ている。夜間の訓練は年度末に単独で行う計画をしている。水・食料・毛布・オムツの備蓄もある。	

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴時の誘導は、ご本人様のそばでお伺いし、使用時は必ず、扉やカーテンを閉め、プライバシーに配慮した支援を心掛けています。個々にあった声かけを行い、尊厳を傷つけないようにしています。	入浴や排泄誘導時は、耳元で声をかけている。介助する時は必ず声をかけてから行き、扉やカーテンを閉め、出来る限り外で見守るよう心がけている。尊厳を傷つけるような対応があった時は、その場で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様自身の思いを素直に表現できるように問いかけるような言葉がけを行う等配慮し、ご自身で決定して頂けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のコンディションに合わせ、生活して頂けるよう、最初から無理強いはいしません。ご希望をお聞きしたり、表情からその方のお気持ちを読み取るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしさを保てるように、今まで着てみえた服をお持ちいただいたり、くしで髪の毛をとかせる方は、ご自身で整えたりして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフがご利用者様の好みや身体状況に考慮して調理を行っている。季節の食材を取り入れたり、おやつレクリエーションを行い、一緒に作り、食事を楽しむことができるよう支援している。	利用者の好みを取り入れて献立を立て、身体状況に合わせた食事形態にしている。豆のすじやつくしのはかま取りなど利用者の出来ることを一緒に行っている。行事に合わせて、ちゃんこ鍋やおやつ作りなど楽しむ機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少なく、栄養不足の恐れがある方には栄養補助食品等を摂って頂いたり、飲み込む力が弱くなられた方には、とろみを付けさせて頂いたりし、なるべく経口摂取して頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方に関してはお声を掛けさせて頂き、ご自身で難しい方に関しては、口腔ケア用スポンジやガーゼ等使用し、その方にあったケア方法で介助させて頂き、清潔を保てるようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、表情やしぐさなどを見て、トイレに誘導している。夜間はパットやおむつを使用される方も見えますが、日中は座位や立位を保てる方には、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し、トイレへのサインを見逃さないようにしてトイレでの排泄を支援している。夜間も時間を見計らいトイレに誘導している。排泄感覚がわからなかった人がわかるようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様に応じて、牛乳やバナナ等を接種して頂いたり、入浴時に腹部マッサージさせて頂いたりしている。水分量の不足が考えられる方には、水分を摂って頂けるようお声をかけ、自然な排便となるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一般浴室には昇降機、また特浴室があり、ご利用者様の状態に合わせた入浴方法で入って頂いている。入浴の順番や湯温の好みに配慮し、入浴できない時は清拭や足浴を行っている。	特浴があり重度化しても入浴することができる。時間や順番・湯温は利用者の希望に合わせて、好みのシャンプーを使用して入浴を楽しむ支援している。嫌がる利用者には、誘い方を工夫したり順番を変更したりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でもその方の生活習慣や体調に合わせて、いつでも居室で休んでいただけるよう空調管理に気を付け、リビングで傾眠されておられる方には、居室へご案内し、気持ちよく過ごしていただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様が服薬されておられる薬の目的や用法が確認できるようにファイルを作成し、いつでも確認できる場所に置いている。また、心身に異常はないか、常に把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、一緒に洗濯物をたたんだり、歌を歌ったりと小さなことでも役割や楽しみを持ってもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の身体状況や希望に合わせて、スタッフの付き添いや介助のもと近隣の神社や散歩に出かけている。また、お花見や体育大会見学等、季節を感じて頂けるような外出をしている。ご家族様の協力を得て、通院やご本人様の希望される場所へ出かけられることもある。	利用者の状態に合わせて散歩や買い物・地域行事や花見に出かけている。駐車場やベランダに出て外気に触れる機会を設けたり、通院の帰りに家族と食事に出かける利用者もいるが、日常的に出かけることが少ない。	利用者の希望にそって、日常生活に変化をもたせることが出来るような外出支援を期待したい。

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の所持については、ご家族様の了承をいただいたうえで決めている。お金の使用に関しては、ご要望があった場合、一緒に買い物に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や友人の方と連絡が取りたいと希望される場合は、電話をおつなぎし会話をすることができる。届いたお手紙をご本人様にお渡しし、お部屋に飾ることもある。手紙を書きたいご希望があればお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所はソファや畳スペースがあり、ゆっくり過ごしていただけるようにしている。空調をこまめに調整し、リラックスできる空間となるよう心掛けている。また、季節を感じて頂けるような飾りつけをしている。	季節毎の作品・手作りの日めくりカレンダー・利用者の書いた書初めを飾り、ベランダに洗濯物を干すなど季節感や生活感を採り入れるよう工夫している。カーテンやブラインドで外光や室温を調節し、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士のご様子を観察し、気の合う方同士は隣席としたり、かかわりが苦手な方は離れたお席やお一人用のお席とし、個々のご利用者様に合った対応を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真を飾られたり、お位牌を置かれ、毎日お茶やお菓子をお供えされたり、テレビやお布団類を持ってこられ、ご本人様の慣れ親しんだものを活用し、穏やかに過ごしていただける環境づくりに努めている。	入居時に使い慣れた物や大切にしていた物を持参してもらうよう説明している。テレビ・家族写真・趣味の作品を置き、希望に応じて畳を入れ和室仕様にしたり、ベッドの配置を変えたりして、居心地よく過ごせるよう工夫している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の持ってみえる「できる力」に応じ、自立に向けた環境づくりに努めている。障害になる物は撤去し、安全な環境づくりに努めている。車いすをご利用されておられる方も移動しやすいように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目97番地1		
自己評価作成日	平成29年12月8日	評価結果市町村受理日	平成30年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2017_022_kani%27true&ji_gyosyoCd=2172101095-00&Pr_efCd=21&Ver_sionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で、法人の方針に基づいた独自の理念を作り、毎月の全体会議で唱和し、理念に沿ったケアができていのか振り返っている。ご利用者様のできる力を活かして、地域の中で暮らし続けられるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事や中学校の体育大会を見学させて頂いたり、地元の保育園児が来苑してもらったりし、交流を行っている。また、散歩に出かけ、地域の方とあいさつや会話をし、機会を作るよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップを引き受けている。運営推進会議では、自治会長様・民生委員様・地域の方・ご家族様に活動状況を報告すると共に、認知症に対する理解を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告を含め、事業所の実績を報告し、全参加者にご意見をお聞きしている。その報告書や会議録は、全利用者様のご家族様に郵送させて頂いている。会議の内容は、スタッフ全体会議の場でも伝え、指摘事項については、話し合い、解決するようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の手続き代行や、報告書類の提出時は、担当の方に会い、最近の暮らしぶりや状態を報告し、相談しやすい関係づくりに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、国道に面しているという立地条件から、施錠させてもらっているが、散歩や気分転換できるよう外出する機会を作り、外気に触れられるようにしている。また全体会議の勉強会での身体拘束の内容や弊害について学びや確認を行い、介護度の高い方でも外出できるよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議時に虐待に関するアンケートを実施した後、勉強会を行い、知識を再確認する機会を持ち、共通の認識が持てるようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の全体会議時に勉強会を行い、全スタッフが理解や再認識できるようにしている。 成年後見制度を利用されてみえるご利用者様がみえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに対する姿勢をご説明させて頂き、了承を得ている。重度化や看取りに対する指針、医療連携体制や料金体制、また契約解除に至る対応等、そしてその後の支援にも納得が得られるように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご意見やご要望を聞いたり、家族アンケートにご意見を記入してもらったりしている。アンケート結果はご意見を集約し、結果を報告している。江並新聞の発行や各受持ち担当者から近況報告を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回自己評価を行い、リーダー・管理者立会いのもと面談を行い、意見を聞いている。毎月の全体会議や日々の介護でも意見を出し合い、全スタッフで検討し取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の体調や家庭環境に合わせた労働時間になっている。本人の勤務希望をできる限り可能にし、働きやすいようにしている。スタッフのモチベーションが保たれるよう、研修案内をいつでも閲覧できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して、一人一回は外部研修に参加するよう呼びかけ、研修代は事業所側で負担し、学べる機会を作っている。研修後、全体会議の場で報告会を行っている。資格取得についても呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、同法人全事業所の管理者や介護支援専門員が集まるトップマネジメント会議があり、勉強会や意見交換を行っている。他の事業所の取り組みについて、良い事は施設内の活動に取り入れ、質の向上に努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様と共に施設内を見学して頂き、雰囲気を感じてもらい、安心して頂いたうえで入所申し込みをして頂くようにしている。事前面接などで、ご本人様は勿論、ご家族様より生活状況や今後の生活に対する思いを十分お聞きし、安心して暮らして頂ける環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族様の苦勞や、今までのサービスの利用状況や経緯について、ゆっくり話を聴くことにしている。話を聴くことで、ご家族様が求めておられる事を理解し、事業所としてどのような対応ができるのか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入所と考えるのではなく、担当されておられるケアマネージャーより話を聴き、相談させて頂いたり、ご本人様やご家族様が何に困っていらっしゃるかを明確にしてからの契約としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全スタッフは、人生の先輩であるご利用者様に色々な事を学ばせて頂いたり、励ましを頂いたりし、働く者としての元気や意欲につながっている。お互いが協働しながら穏やかな生活ができるよう場面づくりや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況をご家族様にお話しし、情報の共有に努め、ご本人様と一緒に支えていく為に、ご家族様と同じような思いで支援させて頂き、信頼関係を深く築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話やご家族様・親戚の方からなじみの人や場所の情報を得ている。ご家族様の協力を頂き、友人や知人の来苑を依頼し、来苑の際は、お飲物をお持ちし、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。面会時間は特に限定していません。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話をお聴きしたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごせる時間の場面づくりをする等、ご利用者様同士の関係がうまくいくよう、良き調整役になれるよう、職員間で情報を共有し、注意深く見守るようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院へ移られても、混乱が少しでも軽減できるように、これまで施設で過ごされてこられた生活リズム等の情報を提供し、きめ細かな連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話に時間をかけ、会話が困難になられた方も、お声をかけ、表情や行動より思いを汲み取るよう努めている。申し送りノートを活用し、情報共有に努め、ケアに活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、これまで担当されてみえたケアマネジャーより、今までの暮らしぶりや価値観等を良くお聞きし、大切にされてみえた物等は可能な限りお持ちいただき、安心して過ごして頂けるような環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や会話の中から、小さな心身状態の変化も見逃してしまわない様心掛けている。毎月の全体会議時にケースカンファレンスを行い、職員間で検討事項を話し合い、現状を全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフは日々の関わりの中での気づきを、毎月のケースカンファレンスで意見交換を行い、そのモニタリングから、介護計画を見直している。ご利用者様・ご家族様のご希望、医師から指示がある場合は、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さなことでも記録に残し、申し送りノートや連絡ノートを活用し、情報を共有できるようにしている。プラン評価に関しては、ケースカンファレンスで話し合った内容をもとに、担当スタッフが記入をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じて、通院の送迎や衣類・介護用品の購入、また行政等への申請に関する助言等、個々のニーズに柔軟に対応し、満足度を高めるようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場を活用し、市・自治会長・民生委員・消防署より情報を頂いたり、日頃より何かあった場合の協力関係をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様・ご家族様のご希望があり、かかりつけ医から協力医に変更され、往診してもらっている。看護師がオンコール体制となっており、ご利用者様・ご家族様に安心して過ごして頂けるようになっている。受診前後はご家族様に連絡し情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、いつもと違うなという些細な変化でも報告し、小さな状態変化も見逃さないようにしている。看護師は24時間オンコール体制となっており、適切な看護や受診ができるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に応じて看護師やケアマネージャーがお見舞いに行き、その際、担当の相談員や看護師より情報を得ている。また病院側へも施設で過ごしてみえたご様子をお伝えし、ご家族とも情報交換に努め、速やかな退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の方針を説明している。状況の変化に応じて、その都度、説明し確認を取り、ご家族様・協力医・全スタッフが連携しながら、最期まで関わらせて頂くケースが多い。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアル、応急処置や救急車が到着するまでの対応についての勉強会を行い、落ち着いて行動できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含め、隣接している事業所との合同と単独の訓練を年2回行っている。ご利用者様にも参加して頂き、避難用滑り台を使用しての訓練も行っている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時は、必ず扉やカーテンを閉め、プライバシー保護に努めている。排泄の失敗や汚染時も、その方の誇りを傷つけない声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらの都合を押し付けるのではなく、些細な会話からかわりを増やし、思いや希望を表出して頂けるような関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身で移動が可能な方は、その行動を制限する事なく、好きな場所で過ごして頂いている。ご自身の気持ちを言葉に出来ない方に関しては、表情や様子から、お気持ちを読み取り、お疲れの様子であれば、居室へ誘導する等の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が以前着てみえた服をお持ち頂いたり、着替える際には、なるべくご自身で着たい服を選んで頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は様々ですが、皆さん同じメニューで、召し上がって頂けるようにしている。 一緒にキッチンに立つことは難しいですが、食器の返却は手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	なるべく経口から摂取して頂けるよう、個々の状態やできる力を日々考えながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方に関しては、なるべくご自身で頂き、ご自身で行う事が難しい方は、歯間ブラシや不織布ガーゼを使用し、毎食後清潔が保てるようにケアさせて頂いている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録や申し送りをもとに、ご利用者様の排泄パターンの把握に努め、ご様子を見ながら声掛けや誘導を行っている。ゆっくり排泄して頂けるよう、スタッフ間連携し、便座に座られている時間等も配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をいつもより多くとって頂いたり、牛乳を飲んで頂いたり、また腹部をマッサージさせて頂いたりし、少しでも自然な排便につながるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ気持ち良く入って頂けるように、個々の状態に合わせて、一般浴か特浴にて入浴して頂いている。順番や湯温にも配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に合わせて、日中でも休息できるようにしている。冬場は、湯たんぽや加湿器を使用する等、その方に合った環境を整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のご利用者様が服用されておられる薬に関するファイルが作っており、いつでも目的等の内容が確認できるようになっている。忘れず服用して頂く為に、常にセット時から飲み込み確認までを行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んで頂いたり、新聞を折ってもらったりと、その方に出来る事で役割づくりをしている。 レクリエーションへの参加も促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や地域のイベント、また季節を感じて頂けるような、お花見や中学校の体育大会見学に行ったりしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何か欲しいものがあり訴えられた際は、ご家族様へ依頼したり、こちらの買物時に購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望があった際に、ご家族様と電話で会話できるようお手伝いさせてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにポスターを作り掲示し、季節を感じて頂けるようにしている。異食されない様、また安全に移動して頂けるように動線に物を置かない、トイレに消臭剤を置く等し、気持ち良く過ごして頂けるような空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ご利用者様の様子を良く観察し、気の合う方と歓談できるように、また落ち着いて生活して頂けるように席の配置を考え、一人一人に適した対応を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される前に使用されてみえた物や、なじみの物を持って来て頂き、少しでも落ち着いて生活できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活しやすいように物の配置や危険性のあるものは置かないなど、安全に安心して過ごして頂けるよう、日々工夫している。		